

科目名		助産学実習 Practice of Midwifery		担当教員 (研究室番号)		杉山 泰子 (103) 他		教員への連絡方法 (メールアドレス)			
履修 年次	4年次 前期	科目 区分	専門科目・生涯看護学	選択 区分	自由	単位数 (時間)	10(300)	授業 形態	実習	科目等 履修生	否
										オープンクラス	否
科目 目的		質の高い助産ケアを提供するため、周産期にある母子とその家族への助産実践をとおして、助産師に求められる診断技術、基本的援助技術、分娩助産技術を修得する。また、助産管理の実践を学び、周産期医療の場に応じた助産師の役割について考察を深める。									
ディプロマ・ ポリシー (DP)		主要なDP	F 地域社会に暮らす人々の健康課題の解決に向けて、対象に応じた看護を提供できる。(技能・表現)								
		関連する DP	A 人々の生命・尊厳・権利を尊重し、看護専門職者としての倫理観に基づいて行動することができる。(姿勢・態度) E 地域社会に暮らす人々の生活支援において必要となる情報を分析し、健康課題を解決するための方策を考えることができる。(思考・判断)								
到達 目標		1. 妊婦、産婦、褥婦、胎児・新生児に必要な健康診査、保健指導を実践することができる。 2. 妊婦、産婦、褥婦、胎児・新生児およびその家族の助産診断を行い、立案した助産計画をもとに、実践、評価することができる。 3. 分娩期の母児の状態を総合的に判断し、分娩経過を予測することができ、助産実践に必要な基本的な分娩助産技術を修得することができる。 4. 周産期における異常の予測および判断ができ、適切に対応することができる。 5. 助産師の業務を遂行するために必要な法律・制度を理解し、助産管理の実践を学ぶとともに、助産師の責務・役割について考えることができる。 6. 地域周産期医療の現状を理解し、地域ケア活動における助産師の役割について考えることができる。									
成績評価方法 (基準)		実習目的・目標の達成度、カンファレンスへの参加・実習態度、出席状況・記録物の提出状況について点数化し、評価する。									
再試験の有無と 基準等		「実習の出欠席及び追実習に関する取扱要領」第4条に規定される理由により当該実習期間の1/4を超える日数を欠席した場合に追実習を認めることがある。									
教科書		助産論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで指定した教科書									
参考書等		必要時、紹介します。									
学生の主体性を伸ばすための教育方法と 学生への期待		助産論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲだけでなく、母性看護学概論、母性看護方法Ⅰ・Ⅱ、臨床病態学Ⅳ(産婦人科学)・Ⅴ(小児科学)の理解が確実になされていることも必要です。受持事例の分娩経過に合わせた時間的にも精神的にも厳しい実習です。助産師を目指す意志が明確な学生でなければ負担も大きいでしょう。卒業研究、保健師・助産師・看護師国家試験に向けた学習も課題となります。									
備考		助産師国家試験受験資格取得のための必須科目です。助産論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの単位を修得していることが履修の前提となります。									
学 習 内 容											
〔実習内容〕 1. 助産師として必要な診断技術、基本的援助技術の修得 10例程度の母児の受け持ちをとおして、実際に妊産褥婦および胎児・新生児とその家族に対する援助を行い、妊産褥婦および胎児・新生児に必要な健康診査、保健指導を実践できる能力を養う。 2. 分娩助産技術の修得 10例程度の母児を受け持ち、助産過程の展開および分娩助産をとおして、分娩期の母児の状態を総合的に判断し、助産実践に必要な基本的な分娩助産技術を修得する。また、異常の予測および判断ができ、適切な対応ができる能力を養う。 3. 助産管理における実際 医療施設における助産管理の実践を学び、助産師として必要な責務を自律して遂行する態度を養う。また、助産師の業務を遂行するために必要な法律・制度を理解する。 4. 助産師による地域ケア活動における実際 分娩期から継続的に対象をとらえ、ケアを実施し、評価することをとおして、地域ケア活動における助産師の役割について考える。 助産所における助産師の活動の実際を見学し、その役割について理解する。 5. NICUにおける看護の実際 NICUの施設見学やハイリスクベビーへの看護の実際を見学することによって、NICUの役割・機能を理解し、ハイリスクベビーおよび母親・家族に対する看護者の役割について考える。それらをとおして、妊娠・分娩期に必要な診断技術、基本的援助技術のあり方について考える。											
〔実習場所〕 三重県内の病院、診療所、助産所 * 詳細は、「実習要項」を参照する。											

学 習 内 容

〔実習内容〕

1. 助産師として必要な診断技術、基本的援助技術の修得
 10例程度の母児の受け持ちをとおして、実際に妊産褥婦および胎児・新生児とその家族に対する援助を行い、妊産褥婦および胎児・新生児に必要な健康診査、保健指導を実践できる能力を養う。

2. 分娩助産技術の修得
 10例程度の母児を受け持ち、助産過程の展開および分娩助産をとおして、分娩期の母児の状態を総合的に判断し、助産実践に必要な基本的な分娩助産技術を修得する。また、異常の予測および判断ができ、適切な対応ができる能力を養う。

3. 助産管理における実際
 医療施設における助産管理の実践を学び、助産師として必要な責務を自律して遂行する態度を養う。また、助産師の業務を遂行するために必要な法律・制度を理解する。

4. 助産師による地域ケア活動における実際
 分娩期から継続的に対象をとらえ、ケアを実施し、評価することをとおして、地域ケア活動における助産師の役割について考える。
 助産所における助産師の活動の実践を見学し、その役割について理解する。

5. NICUにおける看護の実際
 NICUの施設見学やハイリスクベビーへの看護の実践を見学することによって、NICUの役割・機能を理解し、ハイリスクベビーおよび母親・家族に対する看護者の役割について考える。それらをとおして、妊娠・分娩期に必要な診断技術、基本的援助技術のあり方について考える。

〔実習場所〕
 三重県内の病院、診療所、助産所

* 詳細は、「実習要項」を参照する。

学 習 課 題

* 詳細は、「実習要項」を参照する。

実務経験を活かした教育の取組

・担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の教育を行う。また、実習施設では医療職（医師・助産師等）として実務に携わっている指導者から指導を受ける。